

# VMwareイメージを利用した構築

## VMwareイメージを利用した構築

NIIが提供する“OSからshibboleth(IdP)までインストールされた”システムを利用する方式です。貴学では、貴学のサーバにVMware Serverをインストールし、その上にこのシステムイメージを稼動することで利用できます。

 本ページでの記述およびVMイメージは古いものです。Shibboleth IdPの最新版は3.1.1であり、VMwareのソフトウェアも現在はサポートが切れております。Shibboleth IdPをインストールする方法での構築をご検討ください。

1. 前提条件
2. VMwareServerをインストールする
3. VMイメージをダウンロードする
4. VMwareServerにVMイメージを登録し、起動する
5. ゲストOSにログインする
6. IPアドレス、ホスト名を変更する
7. 時刻同期を設定、確認する
8. セキュリティを設定、確認する
9. サーバをリブートする

## 1. 前提条件

### (1) NIIで動作検証した環境

- ・ホストOS : CentOS 5.3
- ・VMwareServer : VMware-server-2.0.1-156745.i386.rpm

※64bit版OSの場合は、VMwareServer: VMware-server-2.0.1-156745.x86\_64.rpmをご使用ください。

### (2) 配布するVMイメージの初期情報

#### ■VMwareServerでの設定

- ・ゲストOS : 「LINUX」 - 「Other Linux 2.6.x kernel」
- ・ネットワーク接続 : ブリッジ
- ・ディスクサイズ : 4 GB
- ・メモリサイズ : 2 5 6 MB

#### ■(ゲスト)OSでの設定

- ・(ゲスト)OS : CentOS 5.3 (Apache HTTP Server 2.2.3-22)
- ・rootパスワード : passwd
- ・ホスト名 : upki-test-idpvm.nii.ac.jp
- ・ipアドレス : 192.168.0.1
- ・インストールソフトウェア :

開発	開発ツール (オプションパッケージは全て無し)
	開発ライブラリ (オプションパッケージは全て無し)
サーバ	Webサーバー (オプションパッケージはHTTPのみ)
	ネットワークサーバー (オプションパッケージはLDAP Serverのみ)
ベースシステム	ベースのみチェック (オプションはデフォルト)
X Window	なし

- ・追加インストール

SUN JDK 1.6、Apache Tomcat 6.0、openldap-2.3.43-3

- ・Firewall Configuration :

Security Level	Disabled
SELinux	Disabled

- ・認証設定 : デフォルト(MD5,Shadow)
- ・サービス設定 : iptables, iptables 停止。その他はデフォルト。

### ■LDAPの初期設定

- ・suffix : o=Test Organization, dc=ac, c=JP
- ・rootdn : cn=olmgr, o=Test Organization, dc=ac, c=JP
- ・rootpw : csildap
- ・初期構成

属性	ユーザ1	ユーザ2	ユーザ3
uid	test001	test002	test003
userPasswd	test001	test002	test003
mail	test001_email@nii.ac.jp	test002_email@nii.ac.jp	test003_email@nii.ac.jp
sn	test001_sn	test002_sn	test003_sn
sn;lang-ja	テスト001_sn	テスト002_sn	テスト003_sn
o	Test Organization	Test Organization	Test Organization
ou	Test Unit1	Test Unit2	Test Unit3
ou;lang-ja	テスト001_学部1	テスト002_学部2	テスト003_学部3
givenName	test001_givenname	test002_givenname	test003_givenname
givenName;lang-ja	テスト001_givenname	テスト002_givenname	テスト003_givenname
displayName	test001_displayname	test002_displayname	test003_displayname
displayName;lang-ja	テスト001_displayname	テスト002_displayname	テスト003_displayname
eduPersonAffiliation	faculty	student	staff

### ■shibbolethインストールディレクトリ

/opt/shibboleth-idp

## 2. VMwareServerをインストールする

※ VMware ServerはすでにEOLを迎えておりますので、可能なら他の仮想化ソフトウェアをお使いください。

### ■ダウンロードURL

[https://my.vmware.com/jp/web/vmware/info/slug/infrastructure\\_operations\\_management/vmware\\_server/2\\_0](https://my.vmware.com/jp/web/vmware/info/slug/infrastructure_operations_management/vmware_server/2_0)

## ■ダウンロードプロダクト

NIIでの動作検証環境では、以下のプロダクトをダウンロードし、インストールしました。

- ・ VMware Server for Linux (VMware Server本体)

## ■インストール手順

[http://www.vmware.com/jp/pdf/server\\_admin\\_manual.pdf](http://www.vmware.com/jp/pdf/server_admin_manual.pdf)

貴学の環境によっては、gcc、kernel-devel、kernel-headers、libXtstの追加インストールが必要となる場合があります。

インストールにはシリアルナンバーの入力を要します。  
シリアルナンバーの取得は、以下のURLでアカウント登録をしてください。

<http://register.vmware.com/content/registration.html>

---

## 3. VMイメージをダウンロードする

### ■ダウンロードURL

本サイトの「技術ガイド」 - 「[IdP構築関連ファイル](#)」からダウンロードしてください。

---

## 4. VMwareServerにVMイメージを登録し、起動する

①当該サーバのホストOS上の「/var/lib/vmware/Virtual Machines」配下でダウンロードしたVMイメージを格納し、解凍します。

```
# cd /var/lib/vmware/"Virtual Machines"  
# ls  
upkishibIdPv2.0.tar.gz  
# tar -zxvf upkishibIdPv2.0.tar.gz
```

②upkishibIdPディレクトリが作成され、その配下には以下の5つのファイルが作成されたことを確認します。

```
# ls /var/lib/vmware/"Virtual Machines"  
upkishibIdPv2.0.tar.gz upkishibIdPv2.0  
# ls /var/lib/vmware/"Virtual Machines"/upkishibIdPv2.0  
upkishibIdP.vmx upkishibIdP.vmdk upkishibIdP.flat.vmdk upkishibIdP.vmsd nvram
```

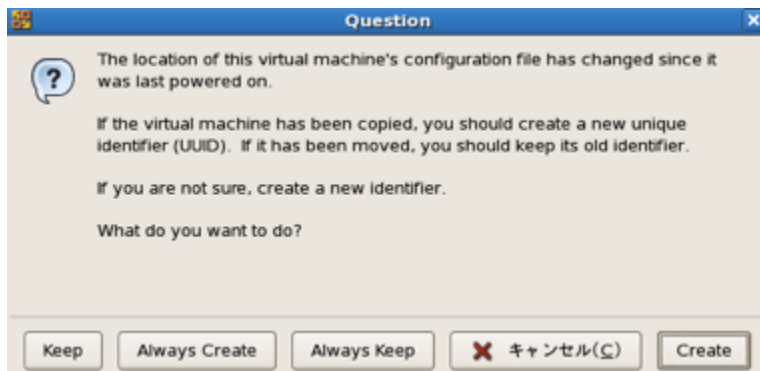
③upkishibIdP.vmxの権限を変更します。

```
# chmod 754 /var/lib/vmware/"Virtual Machines"/upkishibIdPv2.0/upkishibIdP.vmx
```

④ホストOSのX Windowから「VMwareServer Console」を起動し、menuバーより「File」 - 「Open」を選択し「/var/lib/vmware/"Virtual Machines"/upkishibIdPv1.0/upkishibIdP.vmx」を指定します。

⑤「Power on this Virtual machine」をクリックします。

⑥次のようなダイアログが表示されるので、「Create」を選択します。



※仮想マシンを移動またはコピーした後に初めて仮想マシンをパワーオンすると、新しいUUIDを生成するか聞いています。「Create」を選択することにより、MACアドレスが新たに生成されます。

⑦IdPがインストールされたゲストOS (CentOS5.3) が起動します。

## 5. ゲストOSにログインする

■rootの初期パスワードはpasswdです。

■ログイン後、パスワードを変更してください。

```
# passwd
```

## 6. IPアドレス、ホスト名を変更する

■配布時は以下のように初期設定されていますので、貴学の環境に基づき変更してください。

・ IPアドレス : 192.168.0.1

・ ホスト名 : upki-test-idpvm.nii.ac.jp

■変更箇所は以下の通りです。

①/etc/sysconfig/network-scripts/ifcfg-eth0

```
DEVICE=eth0
ONBOOT=yes
IPADDR=192.168.0.1 ←ipアドレス
NETMASK=255.255.255.0 ←サブネットマスク
GATEWAY=192.168.0.254 ←ゲートウェイ
NETWORK=192.168.0.0 ←ネットワークアドレス
(中略)
```

②/etc/sysconfig/network

```
NETWORKING=yes
NETWORKING_IPV6=no
HOSTNAME=upki-test-idpvm.nii.ac.jp ←ホスト名
```

③/etc/resolv.conf

```
search nii.ac.jp ←ローカルドメイン名
nameserver 192.168.0.2 ←ネームサーバ
```

#### ④/etc/httpd/conf/httpd.conf

```
(中略)
ServerName upki-test-idpvm.nii.ac.jp:80 ←ホスト名
(中略)
```

#### ⑤/etc/httpd/conf.d/ssl.conf

```
(中略)
ServerName upki-test-idpvm.nii.ac.jp:443 ←ホスト名
(中略)
<VirtualHost _default_:443>
(中略)
ProxyPass /idp ajp://localhost:8009/idp/ ←記述されているか確認
(中略)
</VirtualHost>
```

#### ⑥/opt/shibboleth-idp/metadata/idp-metadata.xml

```
(中略)
<EntityDescriptor entityID="https://upki-test-idpvm.nii.ac.jp/idp/shibboleth"> ←ホスト名 <IDPSSODescriptor
protocolSupportEnumeration="urn:mace:shibboleth:1.0 urn:oasis:names:tc:SAML:2.0:protocol"> <KeyDescriptor> <ds:KeyInfo> (中略)

  <SingleSignOnService Binding="urn:mace:shibboleth:1.0:profiles:AuthnRequest" Location="https://upki-test-idpvm.nii.ac.jp/idp
/profile/Shibboleth/SSO" /> ←ホスト名

  <SingleSignOnService Binding="urn:oasis:names:tc:SAML:2.0:bindings:HTTP-POST" Location="https://upki-test-idpvm.nii.ac.jp/idp
/profile/SAML2/POST/SSO" /> ←ホスト名

  <SingleSignOnService Binding="urn:oasis:names:tc:SAML:2.0:bindings:HTTP-Redirect" Location="https://upki-test-idpvm.nii.ac.jp/idp
/profile/SAML2/Redirect/SSO" /> ←ホスト名

(中略)

  <AttributeService Binding="urn:oasis:names:tc:SAML:1.0:bindings:SOAP-binding" Location="https://upki-test-idpvm.nii.ac.jp:8443
/idp/profile/SAML1/SOAP/AttributeQuery"/> ←ホスト名

  <AttributeService Binding="urn:oasis:names:tc:SAML:2.0:bindings:SOAP" Location="https://upki-test-idpvm.nii.ac.jp:8443/idp
/profile/SAML2/SOAP/AttributeQuery"/> ←ホスト名
```

#### ⑦/opt/shibboleth-idp/conf/relying-party.xml

```
(中略)
<AnonymousRelyingParty provider="https://upki-test-idpvm.nii.ac.jp/idp/shibboleth" /> ←ホスト名
<DefaultRelyingParty provider="https://upki-test-idpvm.nii.ac.jp/idp/shibboleth" ←ホスト名
  defaultSigningCredentialRef="IdPCredential">
```

■新しいホスト名とIPアドレスをDNSに登録してください。

## 7. 時刻同期を設定、確認する

■ntpサービスを用い、貴学環境のntpサーバと時刻同期をしてください。  
Shibbolethでは、通信するサーバ間の時刻のずれが約5分を越えるとエラーになります。

■VMwareServerのゲストOSでは、システムクロックが著しくずれませんが、ハードウェアクロックのずれは少ないので、NIIでの検証では、以下の設定を  
施し安定稼働させています。

【設定例】

```
# crontab -l
*/3 * * * * /sbin/clock --hctosys ←3分毎にclockコマンドでシステムクロックをハードウェアクロックに合わせる
*/3 * * * * /usr/sbin/ntpdate (ntpサーバ) > /dev/null && /sbin/clock --systohc > /dev/null ←毎時10分にntpdate コマンドでntpサーバと同期し、ハードウェアクロックも合わせる
```

---

## 8. セキュリティを設定、確認する

貴学のセキュリティポリシーに準拠し、サーバのセキュリティの設定・確認をしてください。

---

## 9. サーバをリブートする

```
# reboot
```

お使いの環境によっては、極稀にサーバ起動時にtomcatサービスで” failed”が表示される場合があります。これは依存するサービスの起動に待ちが発生するためで、” failed”が表示されてもリトライされて正常起動するケースが多いです。

” failed” の場合でも以降の設定および接続テストを実施し、それでもエラーとなる場合はヘルプデスク (gakunin-help (at) nii.ac.jp) へ連絡してください。

---

設定および確認が完了したら、[サイト情報等の設定および接続テスト](#)を行って下さい。